

山の白き杉林 自木の女し ことば
 高き、牛に引かれて善光寺参りの伝説
 の布なり。
 ある信心うすき老婆、川で布をさらし
 たる。牛があらはれ、その布を角にか
 け、北に北に。行き着く先に善光寺あ
 り。老婆恐れ入り、信心を得る。



小諸より
 牛に引かれて
 善光寺参り



江戸より四十四里

北国街道

小諸宿

江戸案内図らしきもの



小諸宿
 お薦め
 旅籠

信州小諸市町
 脇御本陣
 江戸の方向より右側
 善光寺の九割は
 富山定休所
 御本陣
 即御料理
 信州小諸中町角
 明石屋安五郎

御泊つる老婆
 信州小諸本町
 中より宿小諸本町
 つる老婆

御本陣代
 宿泊 田中屋久次郎
 小諸進手花月御と
 印



七 不思議の水風穴
 布引道の南、夏も冷たき風穴
 あり。村人が弘法大師に賜り
 し氷室との伝説あり。
 冬に池の水を切り出し、この
 穴に取り置き、夏に城主に献
 上す。ゆゑにこの地、氷と呼
 ばれる。
 山中には、冬も暖かき温穴も
 あり。いと不思議なり。

上記、諸国道中商人鑑より
 小諸宿で評判高き旅籠を紹介。
 文政十年（一八二七年）
 くめや、明石屋、つたや、
 田中屋、巴屋とある。
 令和四年三月発行
 版元
 小諸宿脇御本陣条屋
 信州小諸市町一ノ二ノ二十四
 四〇二六七二七二一四八二
 注 江戸時代の中でも変遷あり、
 様々な年代の情報が入り乱るこ
 と、ご了承下さるべく候。



北園街道 小諸八景

小諸藩の領(享保二年)
北園街道
東馬瀬口より西大石村
中山道
東塩名田より西芦田

一 霊峰 浅間嶽

馬瀬口、濁川橋より
見る霊峰のさま雄大
なり
常に白き煙立てり

天明大噴火では、
炎と煙が天を覆ひ、
火砕流は利根川まで
も達し村々を飲みこ
み、小諸は、
今は古き噴火の火山
泥流の上にある。



善光寺道名所図会より

八 崖に立つ布引観音

小室節

小諸でてみりや 浅間の山に今朝も三筋の煙立つ
小諸出ぬけて唐松ゆけば松の露やら涙やら

諸国にかくれなき布引山釈尊寺。
そそり立つ崖の上の霊場なれば、あり
がたく、参拝者引きも切らず。北の岩
山の白き模様、白布の如し。これぞ名
高き、牛に引かれて善光寺参りの伝説



辻分宿



※間の宿とは、休息のための
宿にて茶屋、公ではなき旅籠
馬牛の宿のあり。

三 平原の松

加賀の殿様
に褒められ
し、みごと
な松。
枝の長きこ
と龍の如し。



四 唐松の松並木

乙女より一里塚までの見事な
る松並木。坂の上より見ゆる
信州の山並み、
遠く広がる。
眺めいと良し。



辻分宿より北園街道のはじまる

中山道より分かるる脇往還なれど、江戸と
越後をつなぐ道としていとせちなる道なり。
北信越より大名行列、江戸で貨幣となる佐
渡の金銀の運搬は、やむごとなき役割なり。
一生一度は善光寺へと参る人、人や荷馬の
往来も年々増えきて、小諸宿いよいよ賑や
かなりし。関東から運ばれしもの、北前船
で運ばれし海の幸など行き交ひ、東信州の
産物もみなこの宿に集めらる。高都とよば
るる所以なり。

二 田切の崖線

辻分より小諸に至る浅
間根は火山泥流により
成る。川に削られし崖
が帯のごとく兩岸に連
なりて、低地は田とな
れり。
これを田切と呼ぶ。
街道は、田切の崖線を
幾度も登り降りし、ゆ
るやかに小諸宿へとく
だりゆく。

五 谷深き小諸城

火山泥流を千曲川が削りたる
高い崖を背後の守りとし、小
諸城の立つ。幾重もの田切の
深き谷に守らるる天然の要害。
されば城は宿場の下にあり。
このやうな城は他に知らず。



六 大久保橋

小諸宿より布引道に入り、坂
の上より眺むれば、あたかも
仙境に立つ思ひす。そそり立
つ崖を削りし千曲川の流れ、



中山道六十景次 辻分宿

宿場の木戸

寺良、市町に宿場の入口の木戸と番所。夜は通ることあたはず。

武家地と町場の間の木戸・石垣

全ての道に木戸あり暮れ六つから明け六つまで閉門す。また、武家地は街場より一段低く、ぐるりと石垣で囲まる。この石垣は、今も随所に残る。

城下の寺社祭礼など

長勝寺内

姪子神社

一月と十一月の十九、二十日縁日

八幡神社

八月一日(朔日)八朔相撲子供による奉納相撲

近在より多くの人集ふ。東御出身・雷電為衛門もかつてこの土俵に登りて相撲の道を志す。

熊野神社

八月二十五日例祭



全宗寺内 福徳稲荷

毎月縁日が開かれ

海應院

三代將軍より賜りし三つの宝と下馬札あり。大名なりとも門前下馬すべし。境内に龍の松あり。

光岳寺

徳川家康公のお母上、伝通院様の菩提を弔ふ寺。総門は小諸城の足柄門なり。

松井稲荷

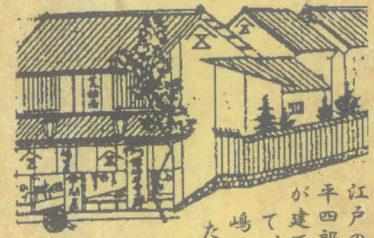
九月十五日祭日



小山家 庄屋敷

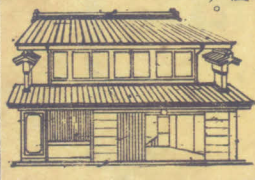
むかし武田信玄の家臣にて、武功立てて小山姓を賜る。江戸のはじめに屋敷を建てた。時折藩主も訪ね給へば、式台玄関、庭も格別麗し。代々当主に受け継がれり。

嶋田屋 (荒物店)



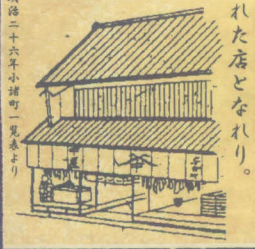
江戸の末に高橋平四郎なる豪商が建てし屋敷にて、明治の頃、嶋田屋が買ひ下駄など閑東一円で手広く高ふ。裏に立派な庭と離れあり。

与良館



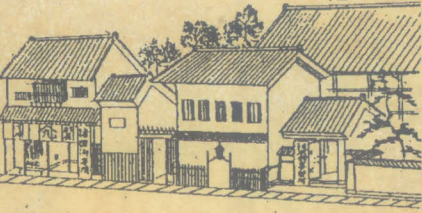
家具屋として、幕末に建てし商家。平成に民の憩いの家となる。庭に移されたる小諸城銭蔵、一見の価値あり。

中吉



江戸末期に建てられ、殺屋、紙問屋を営む。六代目、平成の世に食事処を開業す。今は七代目となり、しゃれた店となれり。

酢久商店 (山吹味噌)



江戸前期の延宝二年創業。建物は江戸末期のものなれど、揚ぐる看板を古し。屋号は酢屋久左衛門。天明の頃より味噌、醬油の醸造を行ひて財をなし、小諸藩への貸金も多し。明治ののち、卸業、製糸業も興し、高都を牽引する豪商となりし店には、信州の土産物など多敷あり。

北園街道 小諸宿



町割圖は延宝二年施設は江戸後期を想定今和に残る江戸の建物

町歩きのご案内承ります 観光ガイド協会 四二一〇五六八

本町通りの中央の用水は蓋がかかられ、十七の水汲み場あり。旅の人馬柄杓にてこの水を汲み喉を潤せり。

嶋田屋

明治二十六年小諸町一見表より

明治二十六年小諸町一見表より

明治二十六年小諸町一見表より

海應院

荒町

酢久商店

嶋田屋

赤坂町

光岳寺

宗心寺

松井稲荷

宝珠院

鹿島宮

泰安寺

南五分

三ノ門

南九

南一

成就寺
戦国時代、小諸城築城の際に鬼門封しのため建立せらる。

成就寺六坊
成就寺参道に六坊の並ぶ。

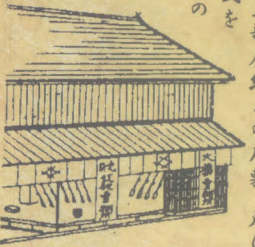
祇園宮(健達神社)
六月十三から十五日、祇園祭。近郷の人集ひて、神輿が町を練り歩く。ささら踊りの行列も華やかなり。

実大寺 三十番神の祭 毎月三十日
鹿島神社 九月六日例祭
天王社
七月十三日祇園祭。十四日は山車が練り出し、人々踊りながら城下を練り歩く。

本町の市 九、十九、二十九日
市町の市 四、十四、二十四日

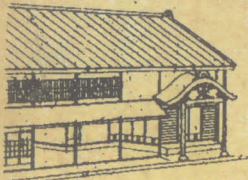
塩川五右衛門・庄屋

江戸中期の建物にて、代々本町の庄屋、同屋を務む。幕末に藩主より鉄砲・火薬をあつかり、のちに鉄砲店となる。立派な三部屋続きの座敷、蔵は家の格式を表すものなり。



そば七

江戸後期築造。もとは本陣代のものともいわれし向拝の彫刻やみごと。平成に、建物を残さんがため蕎麦屋を始めし奇特な人あり。今は息子継げり。



城の天守より北東・鬼門の方角に浅岡山、寺町ありて、災いを封じたり。城下町すなわちひとつの要塞の体を成す。

※江戸の中期までは本陣、同屋ともにあり、市町と月ごとに交代で営みしが、寛保の洪水で流れたり。以降、施設は市町のみとなりしが、その後も同屋の役は両町で分担せり。



協本陣 糸屋

本陣に次ぐ宿にて、はなれに貴人がための奥座敷あり。いとあてなるしつらへなり。

大名行列の折は、ご家老など泊まりたまふ。接客丁寧にて、商人などにも評判良く、常に賑はへり。

貴人は左の式台より入る。土間左は武士、土間右はその他の旅人ならびに荷物の受け渡し、右端は馬の口なり。奥の庭に麗あり。旅籠のおほかたが副業を持ちたれど、茶屋は酒造りなり。よき井戸ありて酒うまし。

小諸宿本陣

参勤交代の殿様、公家様など泊まりたまふ。余人は入ることならず。入り口に堅牢なる門あり。奥に御殿のごとき妻入りの屋敷あり。

注・現代では移築され、屋敷は大手門公園内に、表門は上田の龍洞院にあり。

小諸宿問屋場

街道を行き交ふ荷物を、各宿場の問屋場にて受け継ぎ送る。そのため交代の人馬用意し、つねに馬と人で混雑せり。

寛保の川流れにて本町の本陣、問屋場が流され、以降は市町のみで営業す。本陣の米蔵は明治に酒蔵となりし蔵、今も裏町にあり。

